

日本政治学会 会報

The JPSA News

NO.18

NOV.1989

南原初代理事長生誕100年に思う

福田 歆 一

南原繁先生逝かれてすでに15年、本年9月5日には生誕100年を迎え、長い懸案であった『聞き書 南原繁回顧録』の公刊も実現し、10月31日には記念の会も開かれた。先生は日本政治学会にとって、初代理事長というだけの存在ではない。そもそも日本に全国的な政治学会を組織することを呼びかけられた中心人物であり、1948年11月5日の創立総会で理事長に選ばれてから在任実に6期12年、52年4月にはすでに50年に発足していたIPSAへの加盟を実現し、草創期の困難の中に学会の着実な成長を図られて1960年に及んだ。文字通り生みの親、育ての親と言ってよい。それだけに学会には深い愛着をもたれ、御退任後もつとめて研究会に出席されたから、白髪温顔、最前列で熱心に報告に聴き入る先生の姿を思い出す会員もお少なくないことと思う。上記『聞き書』には残念ながら政治学会のことは出て来ないが、創立当時の先生の役割については、今日いう常務理事として南原理事長を助けられた故堀豊彦教授の筆によって伝えられている¹⁾。筆者はその時期にお手伝いを命じられて以来、理事長としての先生の御苦勞、また今日想像もできない当時の学会の問題については、知るところもあるが、ここでは立入ることを控えたい。

けれども学会が創立40年を越えた今、先生を直接知る会員は当然少数になり、先生の言動が天下の耳目を集めた戦後の時代は確実に歴史に入っていく。深い人格的感化を受けた往時の学生も多くは老い、亡き数を増すばかりである。ただ先生の思想・学問がかえってその輝きを増していることは、生誕100年前後に現われた諸勞作、前記『聞き書』に付された三谷教授の解説²⁾、第1回日本CSPTにおける加藤教授の報告³⁾、あるいは

米国におけるパーシェイ博士の学位論文⁴⁾にも明らかである。それは先生が象牙の塔にこもって、動乱の世界と滅亡に向う祖国という現実とのきびしい緊張のうちにつづけられた知的営為の所産であって、その多からぬ、しかし彫心鏤骨の作品は日本政治学説史の一節というには、あまりにも強い生命をもって現在にも語りかけている。ほとんどが半世紀以上を経た作品のこのような生命は、政治についての根本的原理的な仕事の意味を改めて教えずにはいないであろう。

このような遺産の重さを思い合わせると、わが日本政治学会において、多くの国のそれに比して思想史に大きな比重がおかれて来た伝統が決して偶然ではないことが理解されるであろう。政治の科学と並んで哲学的研究の重要さは、先生が『年報』発刊の辞でも強調されたところであった⁵⁾。しかし、わたくしが今特に想起したいのは、先生が機構や制度、政策や技術の実証的な分野の研究者と原理的な分野の研究者が一つの学会にまとまっていることの大きな意味を力説されたことである。このようなまとまりは、法律政治関係の学会の中で群を抜いて対応の明確なIPSAが、同じまとまりをもつという事情にも、もちろん負っている。しかし国体という疑似宗教の呪縛の下に最も深刻な苦難をなめた日本の政治学の苦い経験に負うところがさらに大きい。先生には学会が団結によって政治学の自由と独立とを守るに役立つとのひそかな期待があった。その意味でわが学会が一致して、およそ内面の自由、思想の自由、学問の自由、言論の自由に、強烈な関心をもちつづけることを、この記念の年に改めて期待したいと思う。

(1989.11.4)

- 注 1)堀豊彦「日本政治学会の創立とその周辺」『早稲田政治経済学雑誌』第 200号1966年8月。後に『デモクラシーと抵抗権』東京大学出版会に所収。
- 2)三谷太郎「南原繁百歳」丸山真男・福田敏一編『聞き書 南原繁回顧録』東京大学出版会所収。
- 3)加藤節「南原政治哲学における学的世界観の

構造」。後に『思想』第782号1989年9月号に発表。

- 4) Andrew Barshay, *State and Intellectual in Imperial Japan*, University of California Press, 1988.
- 5) 南原繁「日本における政治学の課題」『日本政治学会年報政治学 1950年度』岩波書店、1-4頁。

アメリカ政治学会との交流計画について

渉外委員長 佐々木 毅

今年の夏、渉外関係は少なからず忙しかった。先ず、IPSAの企画委員会、執行委員会、ラウンド・テーブルが8月20日から約1週間にわたってオスロで開催された。これには企画委員としての資格で参加し、IPSAの運営の在り方についていろいろと知見を広げる機会に恵まれた。ラウンド・テーブルのテーマは「パブリック・セクターの近代化」であり、北欧の福祉国家の現状と問題点の他、ソ連や東欧の改革問題が議論的になった。出席者は執行委員、企画委員を含め、約30名であった。企画委員会では1991年の世界大会（ブエノスアイレスで開催予定）の企画をつめ、執行委員会では1992年にアメリカでラウンド・テーブルを開くことが決定し、また、1997年の世界大会には新たにユーゴスラビアが立候補を宣言した。なお、次のIPSAの集まりは来年、ソウルで開催されることになった。本学会が世界大会を招へいするかどうかについてはまだ結論が出ていない。なおIPSA関係では、「政治資金・政治腐敗」研究委員会のラウンド・テーブルが東京で9月に開催された。開催に尽力された白鳥会員を初めとする方々の御努力に対し、この場を借りて感謝の意を表したい。

次に、9月10日から14日にかけてワシントンに赴き、アメリカ政治学会のラダー事務局長やウォード渉外委員長と会談した。この訪問の目的は、かねて両国の政治学会の交流についての打診

があったことをうけて、直接、話し合いを行うことにあった。当初は、内田理事長と共に訪問する予定であったが、内田理事長が日程の調整がつかないため、私が1人で訪問することになった。しかし、1人では不都合なことが予想されたため、ワシントン在住でかつて渉外委員であった鈴木佑司会員（法政大学）に同席をお願いした。アメリカ政治学会の要望は、日本の政治についての関心の高まりに対応してそのアメリカでの研究・教育について協力してもらいたいという点にあった。同じことは日本におけるアメリカ政治への関心の高まりとも対応するため、この点で互いに協力し合うことで基本的な合意に達した。10月の学会の際、理事会に話し合いの経過を報告して了承を得た後、折から来日中のウォード教授に内田理事長と共に会い、更に具体的に話をつめた。その結果、3年計画で互いにその年次総会に3名からなる代表を派遣し、日本の政治、アメリカの政治を中心にペーパーを読み、交流の輪を拡大する方向で合意が成立した。これに伴い、渉外委員会を中心に人選を進めることになるが、費用については、その後の折衝の結果、ほぼ見通しが立っている。従って、明年の学会にはアメリカから3名の来訪者があることになり、学会のプログラムについて追加の措置が必要となる可能性が出てきたが、この点については企画委員会や理事会と十分に協議した上で検討したいと考えている。

1989年度 第1回理事会記録

10月7日(土)、午後0時から、神奈川大学において1989年度第1回理事会が開催され、以下の事項が協議・報告された。

〔協議事項〕

1. 監事選任の件

岩重政敏監事の任期満了に伴い、後任として天川晃会員を推薦することが承認された。

2. 「年報問題に関する臨時委員会」設置の件

内田理事長の提案により、「年報問題に関する臨時委員会」の設置が承認され、委員長に有賀理事が選任された。

3. 入会承認の件

下記の者の新・再入会が承認された。

秋本富雄、飯尾潤、飯田文雄、池田実、池谷知明、井田正道、梅垣理郎、大河原伸夫、岡田憲治、小栗勝也、北山俊哉、小林正弥、小林幸夫、近裕一、新庄勝美、下條芳明、鈴木幸夫、鈴木法日児、住沢博紀、高瀬淳一、田村伊知朗、塚本晴二郎、辻田真理子、外山公美、中金聡、中静未知、中野博文、楢原真二、新見直彦、埜村紳二、前田徹、丸谷晃一、三好仙奈、梁起豪、横井正信、吉田直正、輪島達郎、渡邊雅弘、加藤栄一、鶴木眞、真淵勝

〔報告事項〕

1. 委員会報告

①企画委員会

〈1990年度〉

安委員長から、下記のような1990年度研究会の企画原案が説明された。

第1日目

分科会Ⅰ(午前)

A. 西欧社会主義の「終わりなき課題」

B. スターリン体制とペレストロイカ
— 地方政治をめぐる状況 —

C. 中国の政治 — 歴史と現代

D. 独立30周年のアフリカをどう捉えるか

分科会Ⅱ(午後)

A. 比較政治・思想の方法

B. 東欧社会主義の改革

C. 現代国家におけるナショナリズム(仮題)

D. 日本資本主義における国家像

第2日目

共通論題A(午前)

日本における政軍関係 — 戦前と戦後

共通論題B(午後)

現代政治理論

②年報委員会

〈1989・1990年度〉

編集作業が予定どおり進行している旨、三谷(1989年度)・阿部(1990年度)各委員長から報告された。

〈1991年度〉

村松委員長から、1991年度年報委員が報告された。

年報委員: 天川晃(横浜国立大学)、五百旗頭真(神戸大学)、岩崎美紀子(筑波大学)、梅津實(同志社大学)、大山耕輔(筑波大学)、小野耕二(名古屋大学)、河野康子(東京都立大学)、篠田徹(北九州大学)、樋渡由美(東京外国語大学)、的場敏博(京都大学)、真淵勝(大阪大学)、御厨貴(東京都立大学)、三宅一郎(神戸大学)、村松岐夫(京都大学)、寄本勝美(早稲田大学)

③文献委員会

〈1990年度〉

西田委員長から、1990年度文献委員が報告された。

文献委員: 出原政雄(同志社大学)、伊藤彌彦(同志社大学)、梅津實(同志社大学)、小田健(天理大学)、川端正久(龍谷大学)、坂本勝(近畿大学)、谷川昌幸(同志社大学)、富沢克(同志社大学)、西田毅(同志社大学)、細谷正宏(同志社大学)、依田博(神戸大学)

学 会 ニ ュ ー ス

④ 渉外委員会

佐々木委員長から、1991年度IPSA第15回世界大会が1991年7月20～23日にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催されることが決定され、現在そのプログラムの作成が進行中であること、また、日本政治学会とアメリカ政治学会の間で、目下、交流問題が協議されていることが報告された。

有権者総数	1,084名
投票者総数	398名
投票率	36.7%
有効投票をした会員の総数	395名
無効	3名
投票用紙が返送されたもの	2通
30票以上の得票数者	25名
当選者の最高得票数	109票
当選者の最低得票数	36票

⑤ 「政治学教育・情報に関する臨時委員会」

田口(富久治)委員長から、計画中の「政治学教育に関する情報化・国際化についての調査」および「政治学に関連する各種データベースの調査」の具体案が説明された。

3. 次期理事候補者報告

内田理事長から、9月22日に開催された理事選考委員会で、15名の理事候補者および3名の欠員補充理事候補者の選考が行なわれたことが報告された。

2. 理事選挙結果報告

木坂委員長から、6月に行なわれた第7回理事選挙結果について右記のとおり報告された。

4. 事務局幹事交替の件

飯島昇藏幹事が在外研究のため、後任として吉野孝会員が幹事をつとめることが了承された。

1989年度 総会記録

10月7日(土)、理事会に引き続いて、午後2時から、1989年度総会が開催された。議事次第は下記のとおりである。

- | | |
|-------------|------------|
| 7. 次期監事選任の件 | 内田理事長 |
| 8. 入会承認報告 | 藤原常務理事 |
| 9. 閉会挨拶 | 神奈川大学 西尾理事 |

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 開会挨拶 | 神奈川大学 西尾理事 |
| 2. 理事長挨拶 | 内田理事長 |
| 3. 各委員会報告 | |
| 企画委員会 | 田中委員長(1989年度) |
| 安 委員会 | 安 委員長(1990年度) |
| 年報委員会 | 阿部委員長(1990年度) |
| 文献委員会 | 西田委員長(1990年度) |
| 渉外委員会 | 佐々木委員長 |
| 選挙管理委員会 | 木坂委員長 |
| 政治学教育・情報に関する臨時委員会 | 田口(富久治)委員長 |
| 4. 1988年度決算・監査の件 | 藤原常務理事 |
| | 岩重監事 |
| 5. 1989年度予算の件 | 藤原常務理事 |
| 6. 次期理事候補選任の件 | 内田理事長 |

総会で承認された次期理事(1990.10-1992.10)の氏名は、下記のとおりである。

- | | |
|--------|----------|
| 有賀 弘 | (東京大学) |
| 五百旗頭真 | (神戸大学) |
| ☆猪口 孝 | (東京大学) |
| ☆今中比呂志 | (広島大学) |
| ☆内山 秀夫 | (慶應義塾大学) |
| 大嶽 秀夫 | (東北大学) |
| 沖野 安春 | (新潟大学) |
| 小山 勉 | (九州大学) |
| 蒲島 郁夫 | (筑波大学) |
| 我部 政男 | (琉球大学) |
| 北岡 伸一 | (立教大学) |
| ☆佐々木 毅 | (東京大学) |
| ☆佐竹 寛 | (中央大学) |

学 会 ニ ュ ー ス

高城 和義(岡山大学)
☆田口富久治(名古屋大学)
☆田中 浩(一橋大学)
☆田中 靖政(学習院大学)
寺尾 方孝(法政大学)
土倉 莞爾(関西大学)
☆富田 信男(明治大学)
中川原徳仁(久留米大学)
中谷 猛(立命館大学)
☆中村 勝範(慶應義塾大学)
☆中山 政夫(日本大学)
西川 洋(三重大学)

西田 毅(同志社大学)
☆橋本 彰(明治大学)
☆藤原 保信(早稲田大学)
☆堀江 湛(慶應義塾大学)
☆本田 弘(日本大学)
丸山 敬一(中京大学)
村松 岐夫(京都大学)
☆安 世舟(大東文化大学)
☆山口 定(大阪市立大学)
山本 佐門(北海学園大学)
(☆印は、公選理事)

1989年度 第2回理事会記録

10月8日(日)、午後0時30分から、神奈川大学において1989年度第2回理事会が開催され、以下の事項が協議・報告された。

〔協議事項〕

1. 1991年度総会・研究会開催校の件
1991年度の総会・研究会は、明治大学で開催されることが決定された。
2. 「年報問題に関する臨時委員会」への経費支出の件
藤原常務理事より、予備費から「年報問題に関する臨時委員会」への経費として3万円を支出することが提案され、了承された。

3. 入会承認の件
下記の者の新・再入会が承認された。
草野厚、国分良成、古田雅雄、本田逸夫、佐藤慎一

4. 次回理事会の件
1989年12月9日(土)1時30分から同志社大学で開催されることが了承された。

〔報告事項〕

委員会報告

①文献委員会<1989年度>

中村(勝範)委員長より、265名の自己申告があり、現在、編集作業がほぼ完了した旨、報告された。

1989年度 臨時総会記録

10月8日(日)、午後1時30分から、1989年度臨時総会が開催された。議事次第は下記のとおりである。

1. 開会挨拶 神奈川大学 西尾理事
2. 次期理事長選出の件 内田理事長

3. 1991年度総会・研究会開催校の件 内田理事長
4. 入会承認の件 藤原常務理事
5. 閉会挨拶 神奈川大学 西尾理事

次期理事長選出について、内田理事長から次の

学 会 ニ ュ ー ス

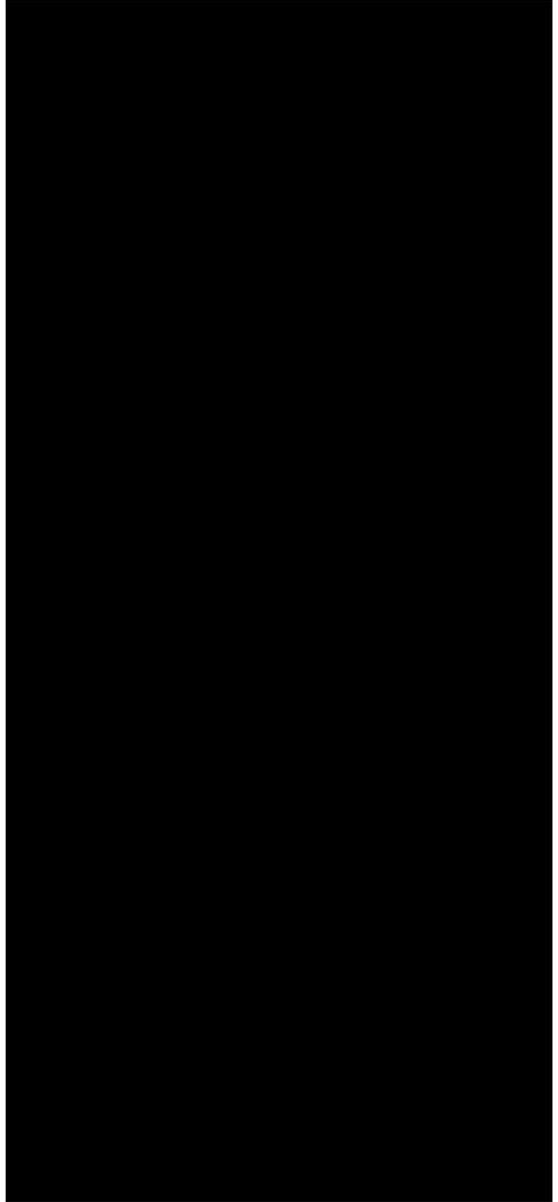
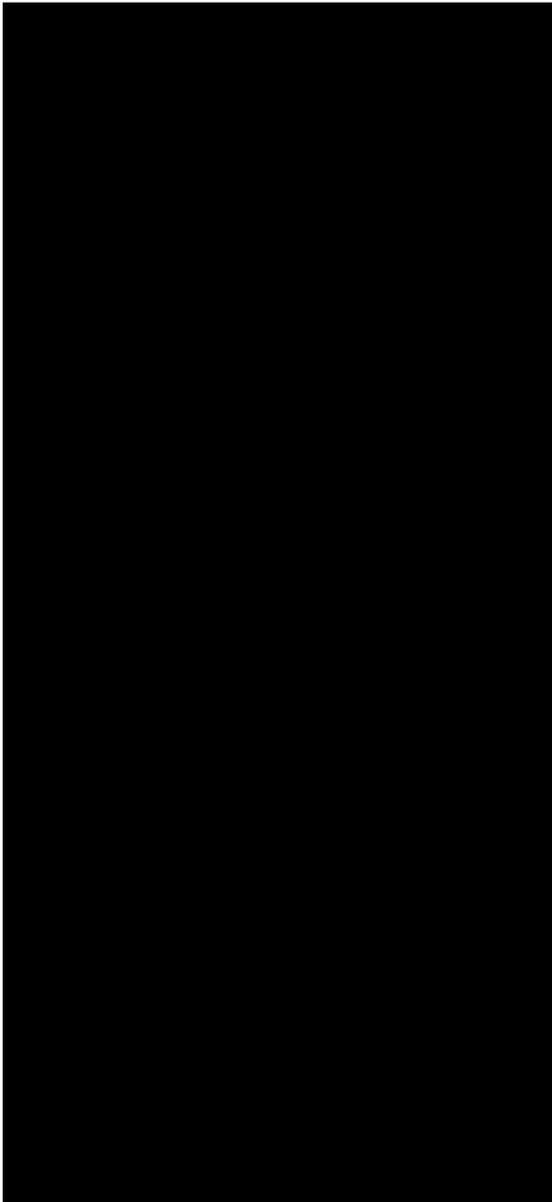
ような報告がなされた。

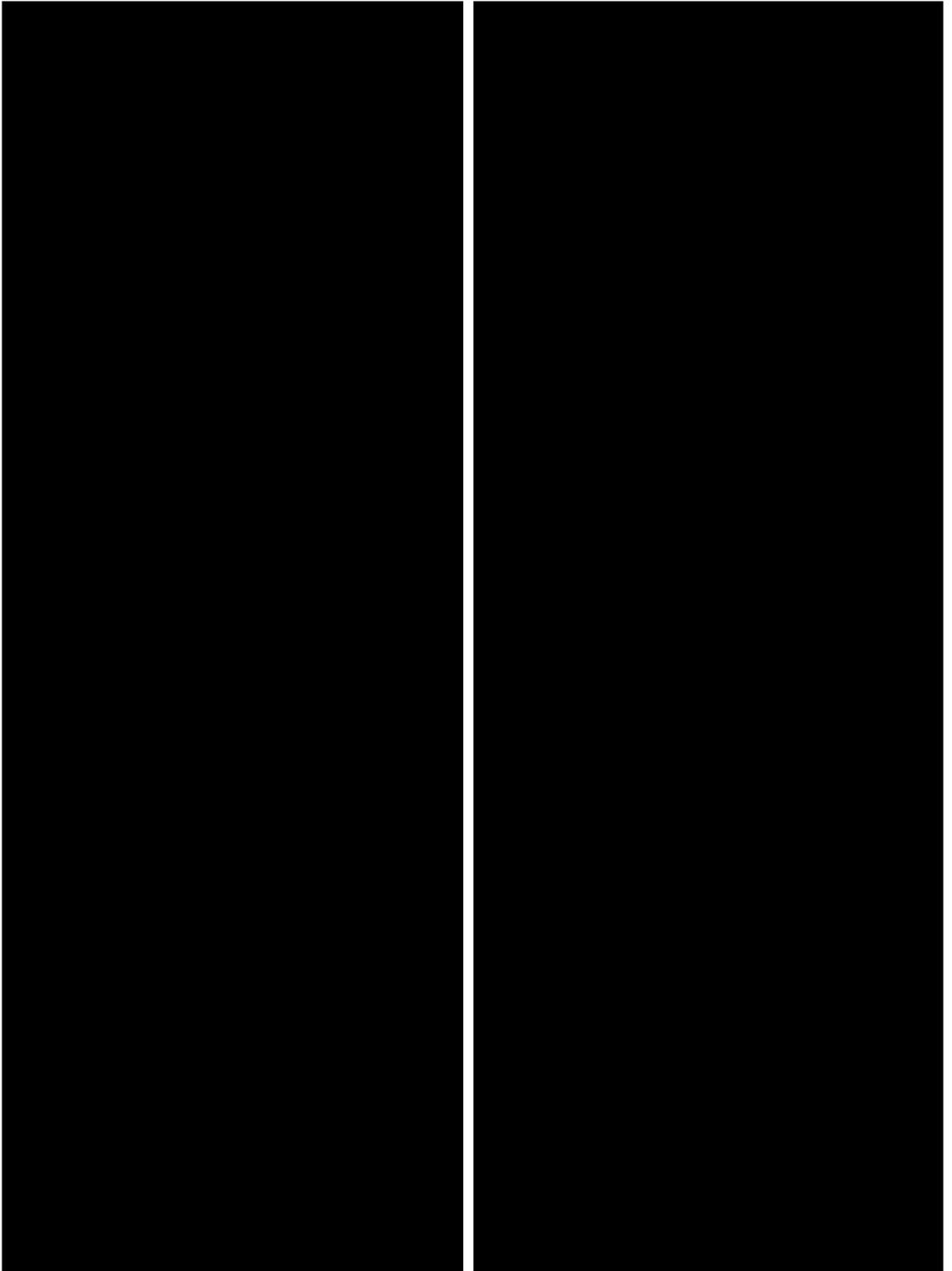
- 第2回理事会に引き続いて開催された次期理事会において、従来からの慣行に基づき、内田現理事長より山口定次期理事が次期理事長に推薦

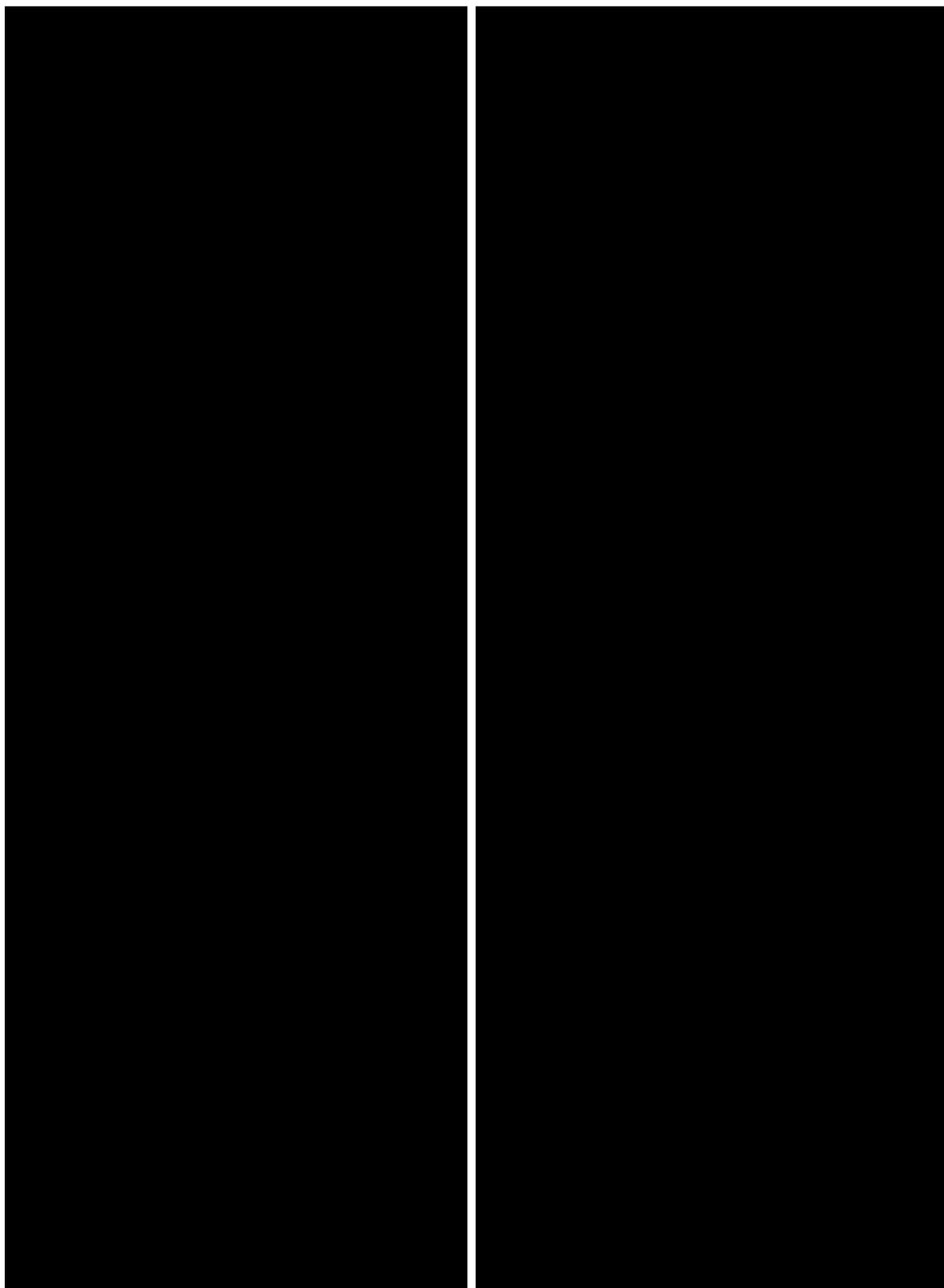
され、了承された。

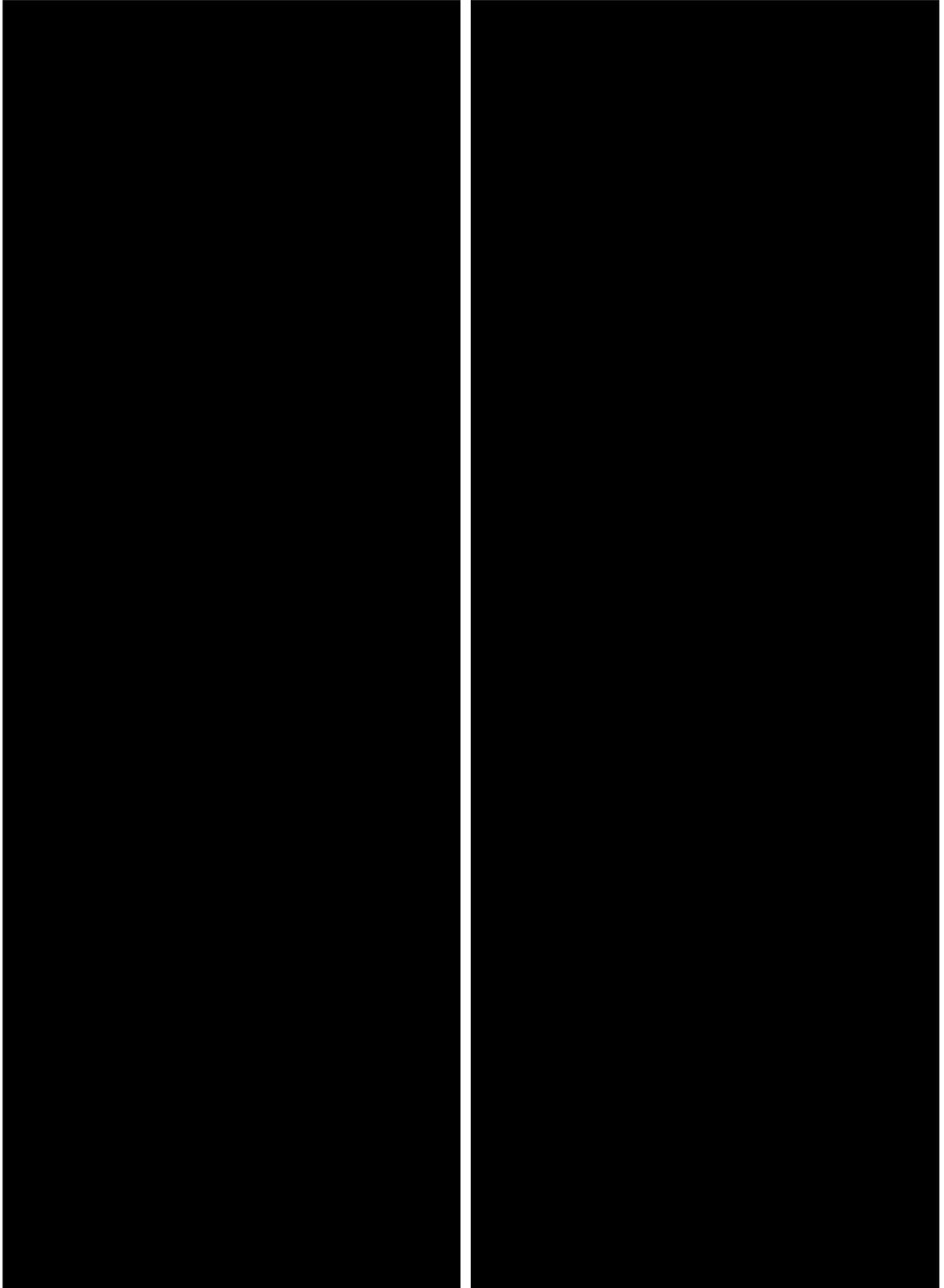
- 次期常務理事の推薦は次期理事長に一任し、次回総会で報告し、事後承認手続きをとることが了承された。

<h3>会 員 の 異 動</h3> (1989年11月20日現在)









事 務 局 よ り

入会申込書書式変更について

入会申込書の書式が変更されました。会員名簿の書式にあわせて、横書きにし、新たに「専門分類索引番号」記入欄を設けました。必要な方は、事務局までご請求ください。

会 費 納 入 に つ い て

会費に未納額のある会員の方には、振込用紙を同封いたしております。同紙にて会費をお支払いくださいますようお願いいたします。そのさい、住所・電話・勤務先・所属・職位等に変更がございましたら、あわせてお知らせいただければ幸いです。

なお、2年度以上会費未納の会員の方は、1990年3月末日をもって、会員資格を失うこととなります。会員資格を失いますと、今後、会報と学会案内は郵送されません。再入会を希望される場合は、前会員時の2年度滞納分をそえ、再入会手続きを取っていただくこととなります。ご了承ください。

関連学会の研究会開催予定

- 日本選挙学会 第10回研究会および総会
日時：1990年5月19・20日(土・日)
場所：京都産業大学

計 報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

馬場 伸也 氏(大阪大学)1989年10月6日没
国際関係論・政治社会学専攻、1937年生まれ

1989年 11月 20日

発行 日本政治学会事務局

藤 原 保 信

〒169 東京都新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学大学院政治学研究科内

TEL 03-203-4141-3113

郵便振替番号 東京 0-84250

加入者名 日本政治学会

印刷

双葉工芸印刷株式会社